

巻 頭 言

2020 年度年報 発刊にあたり

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

理事長 松 波 英 寿

2020 年度は世界中が新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）に振り回された一年でした。その中で、私たちが対コロナに対して何をしてきたかを考えたいと思います。急性期医療を担う医療機関として行うべきことは①感染防御、②速やかな診断、③安全な診察、④患者の隔離、⑤適切な治療、⑥予防接種でしょう。

①スタッフの防御の第一は PPE と手指消毒の徹底ですが、2020 年初旬はマスク、予防着の入手に苦労しました。スタッフには、マスク 1 枚を 1 週間再生しての使用をお願いした時期もありました。

②検体採取にかかわるスタッフの感染機会を減らす目的で、我々が開発した Gifu CURTAIN（ビニール手袋が取り付け、検体回収用の穴が開いた、透明なビニールシート）を自家用車の窓に貼り、患者は自家用車から降りることなく検体採取を行いました。県からの依頼された検体採取センターも、Gifu CURTAIN を使用したドライブスルー方式で開設しました。速やかに PCR の結果を得るために、2020 年 4 月には LAMP 法を、2020 年 7 月には μ TAS 法を導入し、近隣開業医からの検体も受け入れました。

③発熱外来でのスタッフの感染機会は問診の段階から発生するので、AI 問診システム Ubie を 2020 年 1 月に導入しました。さらに患者待合・診察室・CT 室における患者—スタッフ間、患者—患者間の感染機会を減らすために、屋外に個室の待合室、個室の診察室、個室の CT 室をプレハブで設置し、Gifu CUBE と称して活用しました。

④ 2020 年 4 月には南 7 東病棟を 7 床のコロナ病棟として軽症・中等症の受け入れ開始し、一時病床を 15 床まで増床し、2020 年 4 月から 2021 年 3 月までに総計 168 症例を受け入れました。

⑤病棟における患者管理はパーソナルな iPad の使用を原則としました。特効薬がない時点においては適切な時期にレムデシビル、アビガン等を投与しました。

⑥ 2021 年 3 月来、自院の医療従事者の予防接種を開始し（1,350 名）、その後、地元の医療関係者 825 名、個別接種としてリスク患者 1,040 名、職域接種として金融機関 4,000 名、報道機関 1,000 名を行い、商工会等の職域接種（約 2000 人）も近々行う予定です。

これらの活動は、職員の多大な犠牲のもとに行い得ました。この場をお借りしてコロナに対峙して下さった職員に心からお礼を申し上げます。また、直接コロナに関係しなかった職員も、コロナにとられた職員の仕事の穴埋めをしてくださりました。そればかりか、受診控えが進む中、医業収入増加に資する働きをしてくれました。重ねてお礼申し上げます。

年報として、この一年の活動のご報告をさせていただきます。職員の方々は、自分の部署のみならず、他の部署の活動を知って、よりいっそう自分に割り当てられた業務に励んでください。院外の方々に於かれましては、宜しくご指導ご鞭撻くださりますようお願い申し上げます。

巻 頭 言

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

病院長 松 波 和 寿

2019 年は COVID-19 の発生した年として永遠に人類の歴史に記憶されるでしょう。これを執筆している段階では、第 5 波と言われるピークが落ち着きつつある状況です。一年前、これほど長く続くとは誰も想像していませんでした。異例の早さのワクチン開発により、徐々に沈静化してきましたが、敵は変異を繰り返し人類に立ち向かいます。なぜ今このような新興病原体に悩まされるのでしょうか。過去にこれほどの猛威を奮った病原体はありません。今後はどうなるのでしょうか。新たな感染症が必ず出てきます。不安だらけです。

今回の COVID-19 により、社会生活そのものの様式は変わりました。三密はもともと人類の好きな状況なのに、それを否定される社会になりました。リアルとバーチャルの世界を使い分ける、SF 映画のような世界になっていきます。医療の世界でも、人が集まる学会、セミナーなどはほとんどが web 開催になり、リアルタイムでのディスカッションができなくなりました。診療においても、診察は対面診療で得られる情報は極めて重要であるにも関わらず、画像診断、血液検査などデータ中心の診療が中心になっていきます。触診という行為がしづらくなります。遠隔医療ではまだ画像と音声しか使えない現在の IT では限界があるでしょう。AI の活用もますます重要になっていきます。COVID-19 がもたらしたものは第 4 次産業革命と言っても過言ではないでしょう。社会そのものが変わらなくてはなりません。しかし、この変化はいずれ起こる変化であり、COVID-19 により、より早く起きたに過ぎないと思います。With コロナ、After コロナの医療は人々の生活により密接に関わり、ますます重要な産業になります。診断治療を行うだけでなく如何に人間らしく健康に生活できるかは医療にかかっています。特に地域の中心としての医療機関の存在は社会生活の基盤になります。また感染症対策は今後の社会生活の軸になるでしょう。

当院が 2018 年に作成した三ヶ年のビジョンは、

- ・地域包括ケアシステムの要として日本一の民間病院になる。
- ・誇りを持って働ける病院になる。
- ・選ばれる病院になる。
- ・全職員が志を同じくし、常に変化する組織になる。

の 4 つを職員で決めました。まさにこれからの、混沌とした社会で求められている病院のあるべき姿です。軸がブレることなく様々な環境因子に左右されることなく、地域社会のためにさらに進化していかなければなりません。

既成概念にとらわれることなく常に未来をみて進化・変化する病院になりましょう。

DX、ダイバーシティ、イノベーションがキーワードです。前進していきます。

あ と が き

このたび、蘇西厚生会の 2020 年度(令和 2)年報を発行することとなりました。この年報により、蘇西厚生会全スタッフが我々の活動を再認識し、次年度のますますの進展につながるよう願っています。

また、連携医の先生方を始め関係各所の皆さまには、年報をご覧いただくことによって当院の現況活動内容をご理解いただき、今後ますます当院との強い関係を築けていくことができましたら幸いです。

COVID-19 により世界中で医療混乱が続き、日本におきましても医療崩壊が起こるのではないかと危惧されるような状況でした。当院におきましても医療体制を確保し継続するために、患者様、連携医の先生方にご協力をいただくことが多々ありましたし、病院職員も多く制限、多くの犠牲をはらうことになった1年でした。

このような状況ではありますが、当院に与えられた使命を全うするとともに、患者さま、連携の先生方に認めていただけるよう、日々努力を重ねて行く所存です。

皆さま方の引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

副院長 診療局長 林 慎

年 報 2020 年度

令和 3 年 11 月 発行

発行者 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

〒 501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代 185-1

TEL 058-388-0111 (代) FAX 058-388-2391
